

【鶴見区】令和2年第1回区づくり推進横浜市議員会議 議事録

開催日時	令和2年2月5日（水）午後3時15分 ～ 午後4時45分
場 所	鶴見区役所6階 8号会議室
出席者	<p>【座 長】 渡邊忠則議員</p> <p>【議 員：6名】 井上さくら議員、古谷靖彦議員、尾崎太議員、 有村俊彦議員、東みちよ議員、山田一誠議員</p> <p>【鶴見区：31名】 森健二区長、松本智副区長、花内洋福祉保健センター長、 菊池孝福祉保健センター担当部長、 山川博子福祉保健センター医務担当部長、 山本尚樹鶴見土木事務所長、山田裕之鶴見消防署長</p> <p style="text-align: right;">ほか関係職員</p>
議 題	<p>1 令和2年度鶴見区個性ある区づくり推進費予算（案）について</p> <p>2 令和2年度個性ある区づくり推進費自主企画事業費（案）について</p>
発言の 要 旨	<p>【議題1～2】</p> <p>有村 議員：鶴見駅西口の喫煙所について進捗はあったか。</p> <p>峰 資源化推進担当課長：現在の喫煙所は、上にデッキがあることで煙が抜けないという点などからも色々意見をいただいている。もう少し開けた場所に移したいと考えており、西口の禁止地区の中で候補を探しているところだが、人通りの面などで適地が見つからず移設は難しい。</p> <p>有村 議員：今年大黒ふ頭で客船同時着岸の予定があるが、区として連携の取組は何を予定しているか。</p> <p>飯島 区政推進課長：昨年4月にターミナルのオープンに合わせイベントを行った。現在は、大黒ふ頭で客船の受け入れが本格化しているので、港湾局からは昨年度と同じ様な形でイベントを行うことは困難だと聞いている。一方で外国への客船寄港数が増えるということもあり、5月6日には同日着岸も予定されている。そこで、ゴールデンウィークの同日着岸に合わせて観光PRブースの出店を行うことや、港湾局が行って</p>

いる観光港湾アプリに区内観光スポットを掲載し、客船の乗客・乗員に寄ってもらえるような情報の発信、区民向けの臨海周遊バスツアー実施の検討、といった方向で考えている。せっかくターミナルができたので、この機を捉えて区内を周遊できるように、区内経済の活性化に向けて、港湾局と連携しながら区として実施していきたい。

有村 議員：昨年も港湾局が港湾物流機能を最優先させていたようだが、区としては連携して賑わっていくよう頑張っていたきたい。

有村 議員：風水害対策では、本市としてもアドバイザー派遣や講座・イベントといった新たな事業について来年度の予算が拡充されていて、盛り込んだ内容になっていると認識している。特に避難場所の運営に関して、風水害の時はかなり前の段階から開設準備に入るため、地域の方々が全部行うのは負担が大きいということで、台風19号の際は区が主体となり避難場所を開設したと聞いている。その結果、ボタンの掛け違いが様々な場面で発生し、民生委員や町内会の話では、区で開設するから必要ないと言われて帰ったという事も聞いたので、来年度は地域と区がお互いに主体的になれるような対話をしっかり行い、整理・調整をしていただきたいと思うが、そういった場を設けることは考えているか。

松本 副区長：風水害の避難場所の運営について、昨年11月に、まず17連合町内会長と意見交換を行った。また来年度の地域防災拠点運営訓練に先立ち、5月頃に全拠点運営委員長及び学校長との会議があるので、そういった場ですり合わせをし、震災と風水害の双方を想定に入れていくことを確認していこうと考えている。

有村 議員：ぜひお願いしたい。また、防災備蓄庫の使用に関して、防災計画風水害編で使用して良いことになっている。現場担当の職員が正しく理解・運営出来ていたならば、もう少しスムーズに対応できていたのではないかと思う。職員の異動もあるので、毎年研修などを行い、教育していくことが重要だと考えている。来年度は、職員向けに研修などをやる予定はあるか。

松本 副区長：鶴見区では、毎年全職員向けに防災研修をやっているのですが、その中でしっかり対応していく。ただ、防災備蓄庫の物資を配布することは大事だが、基本的に避難者は自分で必要なものを持参するという啓発をすることが必要だと考えている。避難時の持ち物についてしっかり啓発するとともに、あわせて防災備蓄庫の物資も活用することを行って

いきたい。

有村 議員：おっしゃるとおり、地域側も理解が必要だし、自助共助をお互いどのように取り組んでいくのかが重要である。だからこそ対話を増やし、ボタンの掛け違いがないよう努力するのが区の役割だと考えている。お互いに協力しあい、良かったと思える環境づくりに努めていただきたい。

古谷 議員：鶴見区民まつり支援事業について予算が減っている理由は何か。また、三ツ池公園フェスティバルでは、全消防団が集まり警備を中心に参加されている。本来は、警備費用が予算に計上されていれば、消防団員が駐車場の整理に携わることなく、本来の役割が発揮できるのではないかという声も聞いたが、警備費用はどこに計上されているのか伺いたい。

岩田 地域振興課長：区民まつりについては、サマーフェスティバルで従来300万円の補助金を支出しているが、開催の見送りによって、2年度予算では、通常であれば300万円が減額となる。ただ、昨今の人件費の高騰などで運営費用も値上がりしているため、三ツ池公園フェスティバルについては、昨年度に比べて50万円の増額、つるみ臨海フェスティバルについては60万円増額しているので一定の警備費用は確保していきたい。消防団については、実行委員会の中で従事者数のノルマは設けていないので、ご協力いただける範囲でお願いしている。

古谷 議員：認可保育園の一次利用調整が終わったところだが、結果を教えてください。

岩田 学校連携・こども担当課長：一次利用調整については、申請件数は約2,000件程度あり、1月末に1,500件程度に内定通知を送付している。コンシェルジュを含め、担当職員が一次利用調整で保留になっている方々に対し、丁寧に説明しながら二次利用調整の案内を行っているところで、二次利用調整の申請締め切りは、2月10日である。

古谷 議員：現時点での保留児童は何名いるのか。

岩田 学校連携・こども担当課長：約400名程度である。

古谷 議員：市全体でも多かったと聞いているので、ここから区の職員の皆さんが大変な時期に入ると思う。一次利用調整そのものが第一希望に添えなかったということなので、事情を鑑みて丁寧に対応していただきたい。

いし、保育施設の整備が適切だったかという点も問われると思うので、対応をよろしく願いしたい。

古谷 議員：脱温暖化行動推進事業に関連し、以前に区庁舎屋上の太陽光パネルが使われていないと指摘させていただいた。「区提案反映制度」の提案案件一覧には記載されていないが、来年度に何らかの動きがあると聞いているが、いかがか。

今仁 総務課長：区づくり推進費予算での修繕が困難なため、温暖化対策統括本部と調整を行った結果、今年度に区配予算が付き、修繕して再稼働することになった。

古谷 議員：ぜひ活用していただき、市民の皆さんに知らせていただきたい。

古谷 議員：「サムエルはらっぱ」は、住宅地の中で貴重な原っぱとなっていて、今まで丁寧に対応されてきたことは承知しているが、3月末に閉鎖となる。改めて公園として整備することを区として上申するなど、何らかの検討をお願いしたい。

岩田 地域振興課長：地域でも親しまれている土地なので、環境創造局へ要望しているが、現状では接道、予算、公園充足率の3点から難しいという回答を得ている。引き続き地域の意見を聞きながら区としても対応していきたい。

古谷 議員：山の手の地域で原っぱは宝だと思うので、少しでも地域に寄り添って残していただけるよう鶴見区一丸となって策を提案いただきたい。

東 議員：洪水ハザードマップは、今年度の更新の予定はあるか。

今仁 総務課長：台風19号の後、非常に需要があり、今年度予算で、1万部追加で印刷したところである。

東 議員：マップでは、浸水想定区域内に例えば、鶴見中や鶴見小などに避難場所があるので、建物の2階以上に避難することとなるが、避難場所を検討した方が良いのではないか。また、身近な避難場所ではなく、潮田地域からわざわざ川を越えて浸水のない寺尾地区の避難場所に避難した方も多かったと聞いたので、身近な避難場所ではなく、地域を横断した避難も想定される。そのような計画はあるか。

今仁 総務課長：鶴見区は、浸水想定区域内に区民の半分以上の方が住んでいる状況である。そうした区域で浸水した場合、浸水想定区域内であっても2階以上に避難する想定が必要だと考えている。おっしゃるとおり、地域を越えて避難場所を設けることは必要なので、大型台風が接近する1日前には、心配な方を収容すべく浸水想定区域外に避難場所を設けることも検討していきたい。

東 議員：浸水しているなか、外出することが危険な場合もあり、誤解も招きやすいので、検討された方が良い。

今仁 総務課長：ハザードマップでは、鶴見区は浸水が3mまでとなっているので、建物の2階に避難していただければ安全と言える。全ての方に避難場所にお越しいただくのは大変なので、今後は2階以上に避難していただくことも含めて啓発を行っていきたい。

東 議員：エリアによっては出水箇所がいくつかあると聞いているおり、危険なためマップに落とし込み、対策を含めて検討いただきたい。

山本 土木事務所長：アンダーパスなどの低いところは、土木事務所で緊急時や水が溜まった場合に通行止めにすることを考えている。特に東海道線の下は、ある程度水深が上がると土木事務所に警報が来るので、至急対応できるようになっている。

東 議員：要援護者について、鶴見区では100%の自治会・町内会で取り組みがされているということは、良いことである。また、情報の把握や普段の見守りは非常に難しい中、鶴見区の事業者ではすでに「IoT」を使った見守りがされているところがある。人手に頼るという手段もあるが、今後は長期的にみて「IoT」の導入も検討課題だと思うがいかがか。

坪山 高齢・障害支援課長：名簿は情報共有方式に順次変わってきている。新たな名簿を渡すときに、他の地域で行われている見守りの方法や黄色いリボン運動などの取組を紹介している。町内会・自治会でもどのような活動をしていこうかと内部で検討するところがとても多く、各自治会・町内会のやり方で地域の方の見守りを進めていくという動向はあるが、区としては今後も要援護者の方々の状況を調べ、引き続き災害時の支援を広げていきたい。

東 議員：市場地区では、民生委員と消防署の方が一緒に回って情報共有していると聞いている。横浜市でもなかなかないことなので、このような

取組もぜひ進めていただきたい。

東 議員：子育て支援について、現在男性の子育て参加ということが言われているが、プログラムの中で父親を対象としたものはあるか。

御小柴 こども家庭支援課長：子育て支援は母親向けに限定しておらず、父親・母親ともに参加いただける。例えば、母親教室ではなく両親教室という名称にする、地域の子育て支援を土曜に開催するなど、父親の参加も促しているところである。

東 議員：市内でも、父親向けに促すことによって子育てや虐待防止にも役立てているという区もあるので、鶴見区でも是非進めていただきたい。

井上 議員：鶴見駅西口の喫煙所は、何度か私も伺ってきていて、オリンピック・パラリンピックの年でもあるので、何とかならないのか。

峰 資源化推進担当課長：候補場所として、何箇所か相談や検討を進めた場所はあるが、なかなか折り合いが見つからないというのが現状である。できれば移設はしたいので、調整を行っているので、もうしばらくお待ちいただきたい。

井上 議員：例えば、駅から少し離れば民間駐車場があるので、民間の駐車場の一角を賃貸したり、現在の場所は上が駐輪場になっているので、屋根の真下でなくて2階に移設するなど、対象を拡大して民間の駐車場の活用を含めて検討しているのか。

峰 資源化推進担当課長：まず、民間よりも横浜市関係の場所の移設を考えているので、この方向で検討を進めている。民間には具体的には声がけしていない状況である。

井上 議員：それで行き詰っているのだとすれば、民間の土地の借り上げを含めて進めていただきたい。

森 区長：いただいたご意見も含めて、あらゆる方策をしっかりと考えていく。

井上 議員：サムエルはらっぱの件について、公園の近隣の充足率ということであれば足りているが、鶴見区としては、公園面積は少ない。今後も活用できるよう検討していただきたい。現状では、3月末で閉鎖して、その後どうなるのか、何か見通しはあるのか。また、財政局との調整はどうなっているのか。

岩田 地域振興課長：地域から廃止届が出て、3月末をもって市に返還となっている。一方で財政局が持っている土地だが、ただちに公共利用という話は出ていない。引き続き4月以降、サムエルはらっぱという名前ではないが、区が財政局に使用承認の申請を行い、いきなり通行止めになるということは短期的には避けたいと考えている。また、その後どうするかについては、何か策を検討するのに地域振興課だけでは難しい話なので、土木事務所や区政推進課を交えて意見交換をしたい。

井上 議員：よろしくお願ひしたい。

井上 議員：区づくり推進費予算で、自主企画事業費の内訳の「区民サービスの向上」はなぜ増額したのか。

今仁 総務課長：魅力ある区役所づくり事業で、新たに待合に防犯カメラを設置することや夏の暑さ対策などにより増額したものである。

井上 議員：発見つるみの冊子を隔年印刷から毎年印刷にするのはなぜか。毎年それほど変わらないと思うので、全体的なものよりも、子育て関係のマップや高齢者・障害者向けマップなど、ニーズにあったものを出した方が良いのではないか。

今仁 総務課長：ほとんどの統計資料が更新されていることと、より鶴見区を知っていただくため、資料の保存方法も含めて冊子の方がより効果的と考えたところによる。

井上 議員：毎年印刷のものを隔年に変えたということであったが、毎年印刷する必要があるのかと思う。発行後に実際に利用頻度の問題などを含め検討、検証していただきたい。

井上 議員：「区提案反映制度」提案案件一覧のうち、局に提案して全く対応されない案件があるのはなぜか。例えば『中央児童相談所サテライト機能拡充』による要保護児童への支援強化」は前にも出されているが、なぜ一切対応ができないのか。また「都市計画道路等の早期整備」の「都市計画道路等」というのは何を特に要望されて、非対応になっているのか、説明をいただきたい。

飯島 区政推進課長：一つ一つの項目ではなく全体の話をしていただくと、局に提案させてもらっている項目について、区は一つ一つ重要な課題と認識している。あとは18区の提案が揃った中で、全市的な制度、地域間でのニーズの強さ、優先順位など、市全体の判断でこのような結果

になったと区としては認識している。一方で、区と局の間で、鶴見区としてこのような問題・課題があると共有できている、また今後共有していくものがあると思うので、引き続き、一つ一つの実行に向けて続けていきたい。その上で、ご質問の案件がなぜ対応不可だったのかということについては、所管局の考えなので、区としてはお答えできない点をご理解いただきたい。

井上 議員：回答は各所管局に確認する。「都市計画道路等の早期整備」とは具体的にどこを要望しているのか。

飯島 区政推進課長：具体的には浜町矢向線や岸谷線等の計画がある道路の要望を行っている。

井上 議員：「鶴見公会堂天井音響更新工事」はなぜ先送りにされたのか。

岩田 地域振興課長：詳しくは市民局でないと分からないが、令和4年度頃に元々特定天井脱落防止工事が予定されているので、この工事と合わせて行った方が効率的であるといった議論があったようだ。

井上 議員：区から市への提案というのは大変重要な制度だと思うので、しっかり取り組んでいただきたい。

山田 議員：「千客万来つるみ」プロモーション事業に関して、昨年度観光ネットワークづくりの交流会も実施され、かなり幅広いところから取り上げる機運が高まっていると思う。その中で、観光については、インバウンドに対する対応も考えていかなければいけない。昨年ラグビーワールドカップがあり、多くの外国人が日本に来られ、その際、宿泊で立地、価格、利便性の面からかなり鶴見にも外国の方がいらしていた。ただ、鶴見の宿泊施設は多くが東口にあるが、若干英語表記が少ないと思う。こういったところから一つ一つ対応していくことによって、鶴見の街がインバウンドに対応できる場所もあると思うので、検討していただければと思う。

また、鶴見区民まつり支援事業に関して、私も鶴見で育ってきているので、花火大会は風物詩として刻み込まれているし、長らく三大フェスティバルとして親しまれてきている。色々な事情でサマーフェスティバルが開催されないことは、かなり残念に感じている区民の方もいるので、これに代わるような取組などは検討されているのか伺いたい。

森 区長：長い歴史のあるサマーフェスティバルについては、ご存じのとおり、昨年度事務局であったところが外れ、開催を断念した。そして今年

は、オリンピックイヤーということもあり、オリンピック期間の大きな行事は開催が難しいという状況である。鶴見区では、3つのイベントありきで何か代わりをやるということではなく、花火を続けたいという多くの区民の思いがあるので、それに応えるには安全確保に専門的要素が必要になる。簡単に行政がやるというわけにはいかないので、今までの経過を踏まえ、今までのノウハウがある事務局に代わる、責任をもって安全性を担保できるような事務局を見つけられるように汗をかいてまいりたい。

飯島 区政推進課長：ご指摘のとおり、今年はオリンピックもあり、これを契機としてインバウンド需要に取り組んでいくことについては、昨年のラグビーワールドカップの時以前から、同様の趣旨の話を多くいただいていたので、取り組んできたところである。そのようなこともあり、外国語版デジタル観光マップの作成や既に昨年度、英語・中国語表記の鶴見駅周辺のスポットなどを記載したチラシを区内宿泊施設に置くなど、少しずつ実施してきているところである。今日改めてご意見をいただいたので、区として何ができるか引き続き考えていきたい。

尾崎 議員：小学校向けの横浜市民防災センター見学会について、今年度実績と来年度の計画はどうなっているのか。

今仁 総務課長：今年度は、防災塾として岸谷小学校および鶴見小学校の2校で実施している。来年度の実施については、今後募集する。

尾崎 議員：何校程度予定しているか。

今仁 総務課長：3校程度を予定しているが、申し込みがそれ以上あった場合には対応を検討していく。

尾崎 議員：鶴見川防災対策の「まるごとまちごとハザードマップ」について、令和2年度はどういった取組を行うのか。

今仁 総務課長：「まるごとまちごとハザードマップ」は、電柱に巻き付ける電柱型と電柱以外に設置している看板型があるが、電柱型は、平成30年度に更新したもの以外の全てを令和元年度に更新するので、2年度には予算計上はしていない。看板型については、元年度は一部の更新であることから、今後5か年程度かけて、京浜河川事務所と調整しながら整備していきたいと考えている。

尾崎 議員：国の制度にもあるので、国の予算が必要であるならば、ぜひこ

ちら側にも言っていたきたい。

尾崎 議員：東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた機運醸成では、色々なイベントがスタートして、市役所周りでは緊張感が漂ってきているが、一般の人が参加できるプログラムなどの情報も出てきていて、鶴見区民とオリンピックの繋がりや地域との連携について、よくご相談いただくが、何か分かることがあれば教えていただきたい。

岩田 地域振興課長：地域レベルの話となると、区としてはパブリックビューイングがあるが、限られた予算の中で他に何ができるか考えていきたい。具体的には、自治連合会や町内会レベルでやっていきたいという相談も伺っているので、何らかの形で機運醸成を考えていければと思う。

尾崎 議員：一生に一度のオリンピックなので、鶴見区にも軌跡が残るようにお願いしたい。

尾崎 議員：ひきこもり等の困難を抱える若者の専門相談について、対象が15歳から39歳とあるが、この年齢を超えた、いわゆる「8050問題」である中高年のひきこもりに関する対応や相談は、鶴見区で行っているのか。

坪山 高齢・障害支援課長：ひきこもりの相談は窓口で医療ソーシャルワーカーにより、随時相談の対応をしている。そのほか、ひきこもりについて啓発を進めていくことに取り組んでいる。今年度は、10月31日に「ひきこもりの理解と家族の対応について」、2月18日には鶴見区自立支援協議会主催の「これってひきこもり？」という研修会を行う予定である。ひきこもりの相談は、昨年度は58件だったが、今年度の集計はまだ出ていないものの、職員の感覚だと昨年よりも少し件数が上がっており、家族からの相談が多いという状況である。

渡邊 議員：完成した鶴見区のマスタープランは、2039年度までの概ね20年間を目安にしているが、様々な議論をある程度抽象的に記載されているが具体的な内容もあるので、計画に基づき事業を展開していただきたい。また、防災について、福祉施設の小規模作業所などは、条例の中で土砂災害の避難計画を策定することになっていて、危機管理室がまとめているようだが、どうなっているのか。

向井 総務課危機管理・地域防災担当係長：避難確保計画については、水防

法の改正に伴い浸水想定区域内の福祉施設から避難確保計画を区に提出いただき、区で内容の確認をし、大丈夫だと判断してから市の危機管理室に渡すという形である。

渡邊 議員：概ね完了しているということかと思うが、様々な災害によって対応は違うが、震災があった場合「留め置き」という対応になると思う。横浜で受け入れとなると、職員の対応が非常に大変だと思う。生命を守るために高齢者や障害者など、対応はそれぞれ違うと思うので、様々な施設が対応しやすいように普段から指導しておいた方が、負担が軽くなると思うので、指導していただけたらと思う。

渡邊 議員：マイナンバーの推進について、鶴見区はどのような状況か。

今仁 総務課長：鶴見区のマイナンバーカードの普及率は、人口比で申し上げますと18.1%となっている。

渡邊 議員：マイナンバーカードは、国策として進めていく中で、身分証明として多機能に使えるという点で期待されていたので、しっかり普及していただきたい。例えば、高齢者ドライバーの免許返納などにより免許の代わりに身分証明書として利用できるのが、推進していくことが周りの安全につながるのではないかと。今回の区づくり予算では、事業化されていないが推進してほしい。

松本 副区長：現在、マイナンバー担当として臨時の任用職員を10名ほど戸籍課に増員し、発行業務に対応している。ご指摘のとおり普及は大前提であり、様々な機会を通して普及啓発やPRに取り組んでいこうと考えている。

渡邊 議員：インバウンドやC I Qについては、昨年事業をやっていた中で、様々な課題が見えてきたと考えている。鶴見区は羽田空港からの横浜の入口であり、歴史的なものは優れていて、大黒ふ頭に客船ターミナルが出来たが、観光施策に繋げることは、多くの方の力を借りないと結果は出ないと思う。ここにいる議員の皆がそのような覚悟なので、課題などがあれば是非こちらにも言っていただきたいし、議員団としても対応していきたい。現在、コロナウィルスの話もあるので、同時着岸がどうなるか心配なところもあるが、区民に知ってもらわないと結局、山下ふ頭から来るだけになるので、うまくC I Q施設を利用させてもらうことにより、区民に周知するところから何かやっていただけたらあり

	<p>がたい。</p> <p>飯島 区政推進課長：大黒ふ頭に船が着岸する日に合わせて、引き続きスカイウォークを開放すると聞いている。スカイウォークから大黒ふ頭を眺めれば船が泊まっていることは、区民、市民にとってとても良いスポットになる。課題となっているのは、どのように鶴見駅から臨海部に人を運ぶかというアクセスの問題が大きいですが、船が泊まっている光景を見てもらうことにより大黒ふ頭に船が泊まることの価値を区民に知ってもらうことは大事なので、引き続き今のご指摘も踏まえPRに努めてまいります。また出来ることはやっていきたい。</p> <p>井上 議員：つるみ生活・防災マップは、東日本大震災が起こってから地震、津波が中心であり、風水害が入っていない。情報が多く、内容を精査しないと掲載スペースに限りがあるので、見直す必要があるのではないかと。</p> <p>松本 副区長：ご指摘のとおり、東日本大震災以降、地震・津波を中心にやってきました。今回のことを踏まえ、区ではPR冊子だけでなく、訓練や研修の機会にも風水害対策を織り込んで啓発、あるいは職員の意識も含めて、トータルでやってまいります。このマップを作っている途中で台風19号が来たので修正できなかったが、今後修正していきたい。直近だと5月の広報よこはまの風水害特集で、まず区民の皆さんに啓発をしていく予定である。</p> <p>井上 議員：現在のマップは、地震の場合の避難場所しか掲載されておらず、飲み物・食べ物を持参することは書いていない。例えば、「避難」ということで括って記載するなど、工夫をして修正、変更、更新をしていただきたい。</p>
備 考	